

# 日常の看護の業務に関する アンケート集計結果

会員のみなさまのご協力を得て、本年6月に看護連盟のホームページ上で実施したアンケートの結果をまとめました。

当初の予想を大幅に上回り、11,831人から回答をいただくことができました。各都道府県連盟会長皆様のお力添えも大きかったことと、感謝申し上げます。

今後、会員のみなさまからいただいた貴重な結果を、(看護)政策提言へと繋げるための道筋を当該委員会としても検討し、成果を導きだしたいと思います。

「現場の声」活用促進委員会

# 報告書

「現場の声」活用促進委員会では、現場のみなさまの声を集約し、現場の看護政策実現に向けて活用していくことを目的に、このたび「日常の看護の業務内容」のテーマで会員のみなさまの日常業務に関するアンケート調査をホームページ上で行った。

調査結果の概要をまとめたので、報告する。

「現場の声」活用促進委員会

## I 調査の概要

### 1. 調査目的

会員個人が日常の勤務で最も時間を要している業務の内容を明らかにすることにより、看護業務改善のための政策提言につなげることとする。

### 2. 調査対象

看護連盟会員で、日勤帯に病棟に勤務している看護職員。

### 3. 調査方法

#### 1) 調査方法

日本看護連盟ホームページ内のアンケートページにアクセスしてもらい、当該ページ上に設けた質問項目について回答してもらった。

プライバシーの保護のため無記名による回答とした。

回答ページにアクセスするためのIDとパスワード欄を設け、予め回答協力者にはIDとパスワードを通知し、回答する意思のある看護連盟会員以外は回答ページを開けないシステムとした。なお、回答したことをもって調査協力に対する同意が得られたものとした。

#### 2) 質問内容

質問内容は、下記のとおりである。

- (1) 看護職としての経験年数
- (2) 日常の看護業務のなかで一番時間を要している業務
- (3) 「看護記録」と書類作成に要している時間
- (4) 「本日」(回答日)の受け持ち患者数
- (5) 記録に関しての自由意見

#### 3) 調査期間

平成29年5月26日から6月23日までの29日間。

#### 4) 分析にあたっての看護業務カテゴリーのスコア化

アンケートでは、表2に示す7つに分けた看護業務について時間を要するほうから順位付けしてもらった。順位1位の項目を7点、2位を6点、……、7位を1点と点数化して、各業務の順位を数値化し、集計した。これによって、日勤帯全体の中で各業務にどれだけの比重を割いているかを比較する目安とした。これは主観的な判断に基づいたもので実際の業務時間の正確な指標とは言えないが、日ごろ看護現場で聞かれる声がある程度反映しているものとする。

## II. 調査結果と考察

### (1) 看護職としての経験年数

経験年数は表1に示す6区分とした。回答者の経験年数は、20年以上が3,053人(26%)と最も多く、次いで0～3年2,390人(20%)、最も少ないのは、16年～20年の1,305人(11%)であった。(表1および図1)

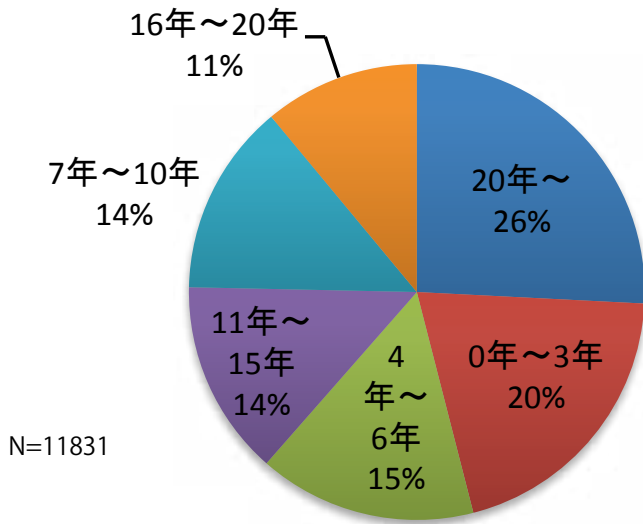


図1 看護職としての経験年数

表1 看護職としての経験年数

	経験年数	人	%
1	0年～3年	2,390	20.2
2	4年～6年	1,829	15.5
3	7年～10年	1,613	13.6
4	11年～15年	1,641	13.9
5	16年～20年	1,305	11.0
6	20年～	3,053	25.8

### (2) 日常の看護業務のなかで一番時間を要している業務はなにか

看護業務を、①直接ケア(清潔、排泄、食事介助等)、②診察・検査・処置等の介助、③看護実践に関する記録(基礎情報(収集含む)、看護計画、看護指示、サマリー等)、④診療報酬に関わる書類作成(入院診療計画書、看護必要度チェック、看護必要度評価記録、退院療養計画書等)、⑤患者・家族への教育・指導、⑥チーム医療に関連するミーティング、⑦その他(具体的内容記入)、の7つのカテゴリに分け、どの業務にどのくらいの時間的比重をかけているかについて順位をつけてもらった。

時間がとられている順位をもとにスコア化した。一番時間のかかる業務を7点、一番時間のかからない業務を1点として、各業務の点数を集計した。さらに、スコアをもとに各業務の全体に占める割合を求めた。

日常業務のなかで最も時間的比重を割いているのは直接ケアであった。現場からは、患者のベッドサイドに行く時間がないとの「声」をよく耳にする。アンケート結果では「直接ケア」に最も多くの時間を取っていることが明らかになったが、全業務の約20%にすぎず現場の声につながっているものと思われた。忙しい中で何とか「患者のベッドサイドでケアをしたい」と日

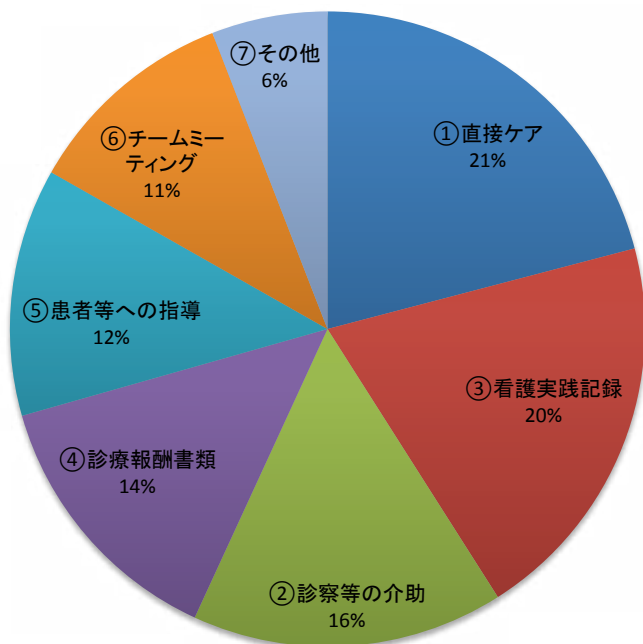
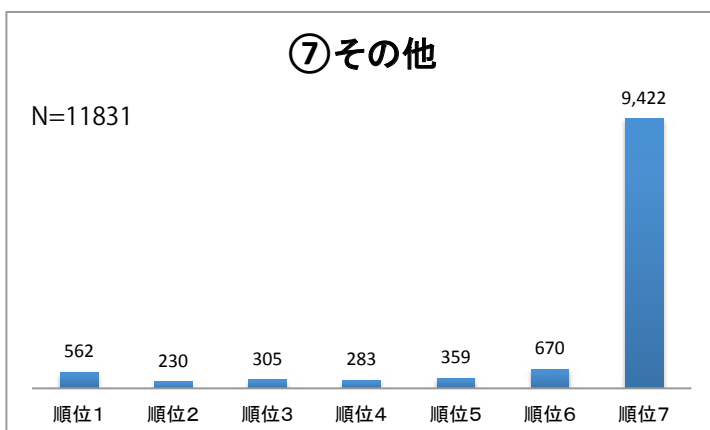
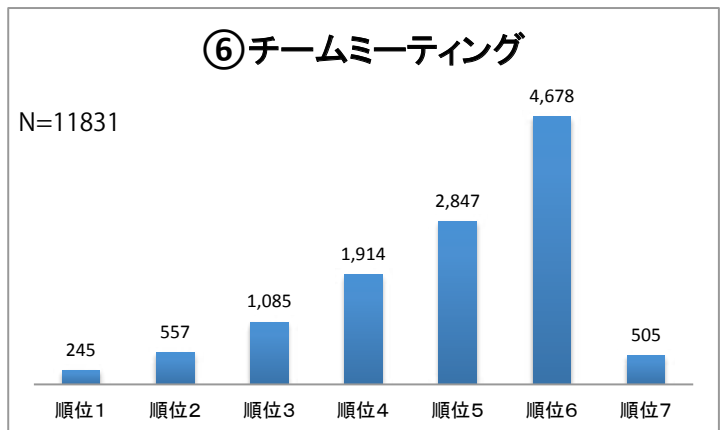
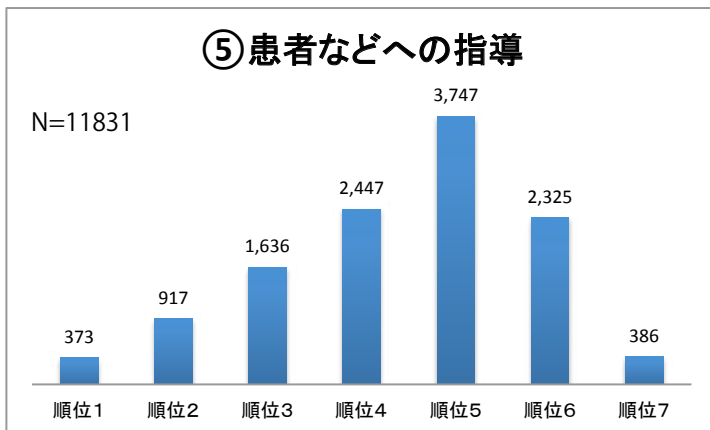
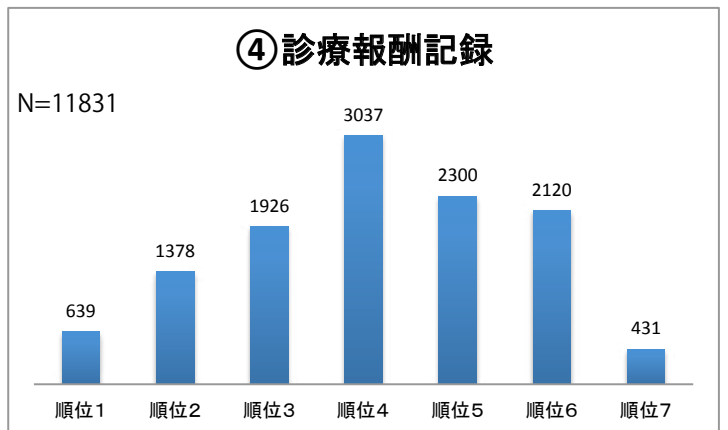
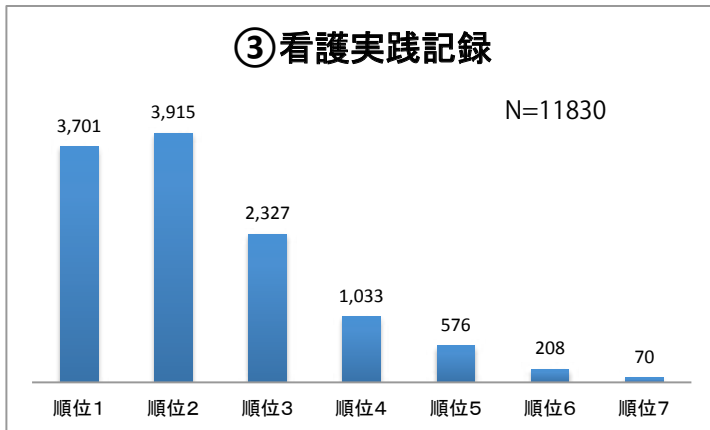
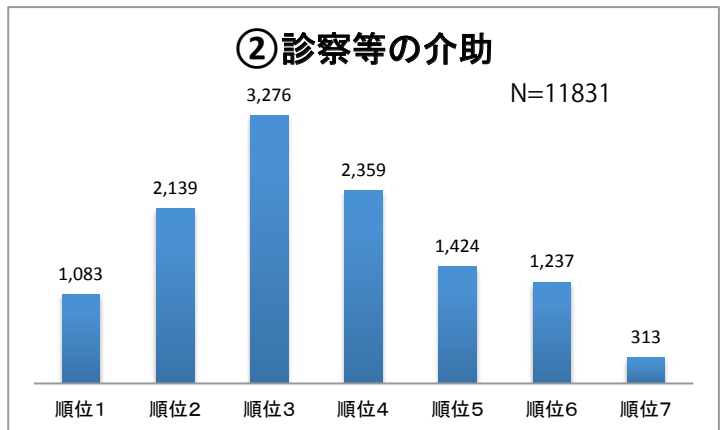
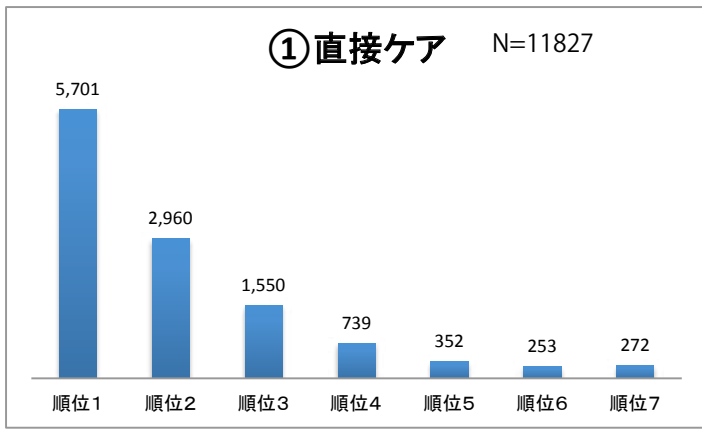


図2 どの業務に時間がかかっているか

表2 どの業務に時間がかかっているか

	業務	スコア	%
1	①直接ケア	70,207	20.9
2	③看護実践記録	67,378	20.1
3	②診察等の介助	53,290	15.9
4	④診療報酬書類	46,090	13.7
5	⑤患者等への指導	42,358	12.6
6	⑥チームミーティング	36,540	10.9
7	⑦その他	19,810	5.9



頃から努力している看護の専門職としての姿勢の表れと考えられる。

「看護実践記録の作成」には「直接ケア」とほぼ同じ程度の時間的な比重が費やされていることも明らかになった。「看護実践記録の作成」と「診療報酬に関する書類作成」を合わせると25%になり、記録作成にかかる時間にも大きなウエイトがかかっている。日常の業務では、看護の中心業務である「直接ケア」「診察等の介助」と同じくらいの時間を「書類作成」に費やしていることになる。

### (3) 「看護記録」と「書類作成」に要した時間

「書類作成」に要している時間については表3および図3のとおりである。「看護記録」と「診療報酬に関する書類作成」を合わせた時間で60分が4273人（36%）と最も多く、次いで90分3136人（27%）であった。

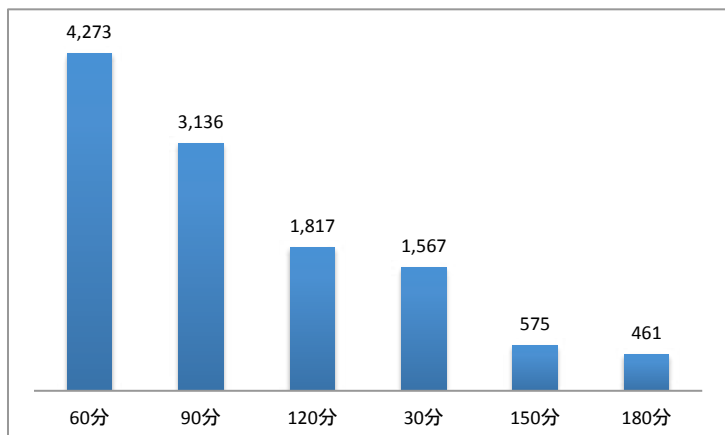


表3 書類作成に要する時間

	所要時間	回答数	%
1	60分	4,273	36.1
2	90分	3,136	26.5
3	120分	1,817	15.4
4	30分	1,567	13.2
5	150分	575	4.9
6	180分	461	3.9

図3 書類作成に要する時間

### (4) 「本日」の受け持ち患者数

回答日の受け持ち患者数は、4～6人と回答した人が4164人（35%）で一番多かった。

次いで、3人までとの回答が2689人（23%）、10人以上との回答が2514人（21%）、7～9人との回答は2456人（21%）であった。

受け持ち患者数については、実際の現場では、診療報酬の配置基準よりも多い看護職で対応していることが明らかとなった。

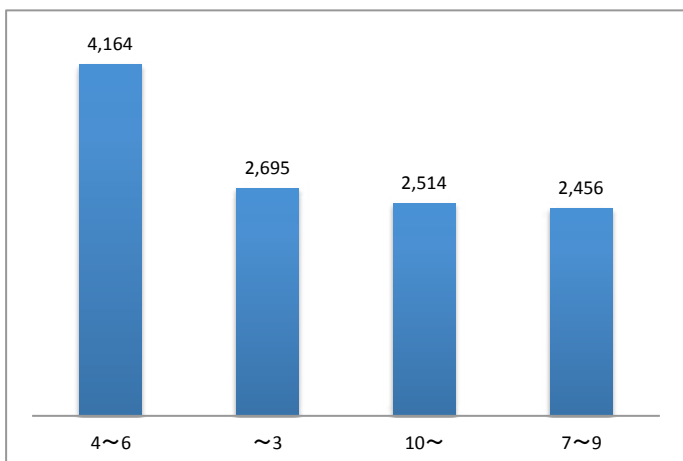


表4 「本日」の受け持ち患者数

	患者数	回答数	%
1	4～6	4,164	35.2
2	～3	2,695	22.8
3	10～	2,514	21.3
4	7～9	2,456	20.8

図4 「本日」の受け持ち患者数

### Ⅲ. まとめ

- ① 今回の「現場の声」アンケートは、11,831人から回答があり、回答者は経験20年以上のベテラン看護師および0～3年の経験が浅い看護師が46.0%を占めていた。
- ② 日常業務の内容としては、直接的ケアに49.4%、間接的ケアに44.7%の比重がかけられていることが分かった。
  - ②-1 患者・家族への直接ケアの内容としては、第1位が「清潔や排泄、食事 介助等」の直接ケア20.9%であり、「診療・検査・処置等の介助」が15.9%、「患者・家族への教育・指導」が12.6%であった。
  - ②-2 間接的ケアについては、「看護実践の記録」が20.1%、「診療報酬に関わる書類作成」が13.7%、「チームミーティング」が10.9%であった。
- ③ 間接的ケアの「看護実践記録」と「書類作成」に要している時間は、60分が4,273人(36%)、90分が3,136人(27%)であった。本調査の回答者のうち7,409人(63%)の看護師が記録や書類作成に60～90分を要していることが分かった。「現場の声」で「記録や書類の改善に関する要望が多い」ことの裏づけになるデータが本調査を通じて入手できた。
- ④ 日勤時間帯における看護師の受持患者数は、第1位は4～6人受持ち4,164人(35%)、第2位が1～3人受持ち2,695人(23%)、第3位が7～9人受持ち2,456人(21%)という結果だった。本調査では、6,859人(55%)の看護師が日勤時間帯では1～6人の患者を受持っていた。日勤時間帯では、7対1入院基本料以上の看護師配置で業務が行われていることが分かった。

臨床現場からは、現在のような勤務状況下では「時間内に業務が終わらない」という声が多く聞かれている。看護政策の実現に向けては、時間外勤務が必要となる要因が何かを含めた情報収集が必須であることを再認識した。